挑戦者

鉄人の舞台に挑む者

国際大会となる今大会。
世界各国からの挑戦はもちろん、地元廿日市からも出場します。
昨年、みやじま国際パワートライアスロン大会
廿日市の部で1位となった古志修一さん。
そして、パラトライアスロンに出場する安井正文さん。
地元からの挑戦者―。2人の今を追いました。

走り込みをする古志さん。トレーニングを考えることも楽しみの一つ。多い日には40kmの道のりを走るとのこと。

積み重ねてきた練習は裏切りません。

家族の応援が背中を押す

トライアスロンを始めて7年、昨年のみやじま国際パワートライアスロンで廿日市市の部で1位に輝いた古志修一（こししゅういち）さん。トライアスロンを始める前はマラソンの大会に出場していました。さらに職場までの通勤にロードバイクに乗り始めたのをきっかけに、トライアスロンに挑戦。現在では年に2大会出場するまでになりました。

「みやじまトライアスロンに初出場したのはリレーの部でした。その時はランを担当しましたが、一人でも完走してみたいという思いが芽生え、次の年には個人の部にエントリーしていました」。

アジア選手権エイジでの年代別入賞を視野に入れ、トレーニングを積み、昨年からは市内スポーツクラブに登録。仕事の終わった後、スイムの練習をするなど力を入れています。

「トライアスロンはスイム、バイク、ランのどれかが優れているだけでは、記録を延ばすことはできません。だからこそ面白いんです。私の場合は、スイムに課題があり、アジア選手権では、昨年からのスイムのトレーニングがどこまで生かされるかが一つポイントになってきます」と話します。

トライアスロンチーム「Team ROCK（広島市）」に所属する古志さん。トライアスロンに関わる知識や情報を教わることも多いと話します。また、メンバーとの家族ぐるみでの付き合いは、トライアスロンを続ける上での楽しみの一つになっているとのこと。

家族でスポーツを楽しむ古志さん一家。今後の夢は、家族チームでみやじまトライアスロンに出場することだそう。

「トライアスロンを続けてこれたのも家族の理解があってこそ。応援がいつも背中を押してくれます」と笑顔に。

古志さんはこれまで、赤穂トライアスロン大会（兵庫県）やトライアスロンさぎしま大会（三原市）で年代別上位に入賞してきました。

「積み重ねた練習は裏切りません。全力でコースを駆け抜けていきたいです」と話してくれました。

トライアスロン　エイジ出場
古志修一（こししゅういち）さん（城内・43歳）

昨年のみやじま国際パワートライアスロン大会のゴールシーン。宮島から吉和まで標高差900mの過酷なコースを初開催から9回完走してきました。

左足を安定させるため、特注の補助具を付けバイクに乗ります。

【パラトライアスロン】
四肢切断、視覚障がいなどの度合いに応じ、5つのカテゴリーに分けられ、車いすやタンデムバイク、義足を使いゴールを目指す。安井さんはPT2（四肢切断）のカテゴリー。

初の地元開催、高みを目指し走り抜ける。

課題のランを克服して

みやじま国際パワートライアスロン大会第1回目から出場する安井正文（やすいまさふみ）さん。アジア選手権では、パラトライアスロンPT2のカテゴリーに出場します。

18歳のとき交通事故で左足を切断。30歳になったとき、体力をつけるため水泳を始めたことがアスリートへの道のりを進むきっかけとなりました。

「結果を残したい。やればできるんだというところを見せたいです」と意気込む安井さん。昨年の世界トライアスロンシリーズ横浜では、PT2で日本人2位。アジア選手権では、日本人最高位も期待できる位置につけています。

「ここ2年、若い選手が台頭してきました。スイムやバイクのタイムは負けませんが、ランに課題があります。この課題を克服するため、昨年からランのトレーニングに力を入れてきました」。

同じカテゴリーのランでは、義足を使い2本の足で走る選手がほとんど。義足をつけることが難しいため、ロフトランドクラッチと呼ばれる2本の杖で体を支え、片足で蹴って走ります。1本の足で進む走法ですが、過酷なものになることは容易に想像できます。また、ランへの新たな試みとして、従来の杖よりも少し長いものを使用。試行錯誤を繰り返しながら練習を積み重ねてきました。

練習の中、一番の支えとなるのは奥さまの幸子さん。安井さんの影響でマラソンや自転車を始め、大会にも出場しています。

「両腕を使い走るため、今1kmを何分で走っているのか確認が難しいんです。練習のとき、一緒にいる妻がタイムを教えてくれます。彼女が一番の理解者であり、サポーターなんです」と笑顔に。

JTU（日本トライアスロン連合）強化指定選手の安井さん。初の地元開催、記録はもちろん、より上の順位を狙いたいと話します。

「できないことはない。大会では選手たちが全力を出し、最後の一滴まで絞りきる姿をみてほしいです」と安井さん。今、「片足の鉄人」の挑戦が始まります。

パラトライアスロンPT2出場
安井正文（やすいまさふみ）さん（浅原・59歳）